

広報

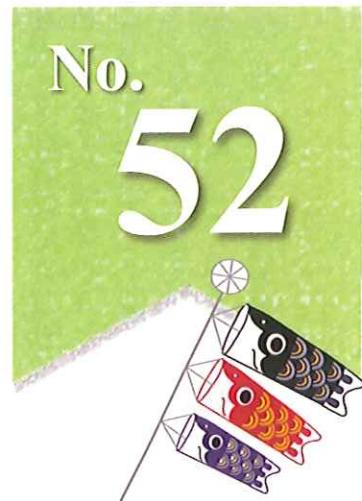
家と里

え い ち け い

特集

今、障がい者スポーツが熱い！

～「福祉」から「スポーツ」へ～



スペシャルインタビュー

谷口 真大選手が語る

スポーツの魅力

「2020年、東京パラリンピック出場とメダル獲得が目標」

マラソンランナー

Taniguchi Masahiro

谷 口
真 大



ひとりよりも
ふたりで。



私には、
夢がある。



よりそい。



おもてなし。



過去に学び、
未来を夢見て、
今を生きる。



バーコードリーダーで読み取り
モバイルサイトにアクセス！



叡知惠

ヘレンケラー女史のイニシャル文字「H.K」の象徴。

『叡』は、深遠な道理を悟る才知とすぐれた知性を言い、『恵』とは、天地のいくしみです。
『叡知恵』とは、森羅万象の情けと、人間の知性の融合という意味であります。

<http://www.helenkeller.jp>

日本ヘレンケラー財団

検索



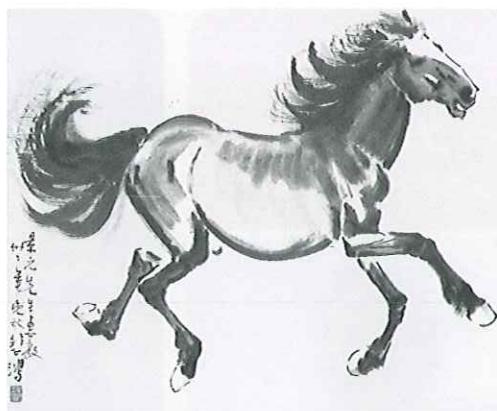
人間万事 塞翁が馬

理事長 西川 佳夫

午年になんか話題をひとつ。『人間万事塞翁が馬(にんげんばんじさいおうがうま)』・・・この諺をご存知の方も多いと思うが、これは中国の「淮南子(えなんじ)」の中に出でてくる故事のひとつ。内容はというと、昔、中国北方の僻近くに住む塞翁という老人の愛馬が胡の地方の敵陣に逃げ込んでしまった。友人たちちはたいそう気の毒がり、老人を慰めた。しかし、老人は「そのうちにきっと良いことがある」と言い、落ち込まなかつた。

暫くして、老人が言つたようにその愛馬が今度は立派な駿馬を引き連れて老人の下に戻つてきた。友人たちちは非常に喜び祝つた。しかし、老人は喜ぶことなく、『近々また不幸なことが起ころう』と嘆いた。彼の息子がその愛馬から落馬し、足を骨折してしまつた。友人們はまたまた嘆き

悲しんだ。しかし、老人は今度も「そのうちにきっと良いことがある」とさなりと言つてのけた。暫くして、戦争が起り、若者たちは次々と戦死していくたが、息子は足が不自由であったため徴兵を免れ、死なずにすんだ。



人間(人生)は何が幸せで何が不幸か予測できるものではない。今不幸と思つても、いつそれが幸福に転じるかわからないし、その逆も叱り。安易に喜んだり悲しんだりすべきではないという例えである。

福祉の分野においても法律、制度等の改正や改悪に一喜一憂するのではなく、長い目で客観的に見据え、対処していかねばならぬ

いとの教えと捉えている。一昔前はコロニー方式がもてはやされ、今ではそれが解体され縮小化に向かっている。また、バブル時『雨後の筈』のように「法人」施設といつた小規模法人が誕生し、最近では社会福祉法人の大規模化『社団型社会福祉法人』が議論されている。

一貫性があるようでないこの分野に常に翻弄させられている福祉業界。しかし、法人理念にもあるように、地域福祉の実現に積極的に貢献し、守る福祉ではなく、常に利用者のニーズに応えていくよう絶えず先駆的事業に法人職員が一丸となつて取り組んでいく姿勢をこれからも示していくねばならない。

1



当法人は平成二十一年四月に阪南市より指定管理事業者として「たんぽぽ園」の管理運営を託され、本期で二期目に入りました。管理運営業務基本協定では、新たに『平成二十八年度中に児童発達支援センター機能の充実を図る』という一項目を追加し、児童発達支援事業から児童発達支援センターへと大きく成長させ、発達障がいのある子どもたちのより専門的な療育施設を目指していかねばならない。職員の一層の奮起を期待します。

「阪南市立たんぽぽ園」の指定管理が新たに五年間延長されました。指定管理者制度とは、多様化する市民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図ることとともに、経費の節減を図ることを目的としており、地方自治法に基づく公の施設の管理について、市議会の議決を経て指定される指定管理者に委任する制度です。

～お知らせ1～
**人命救助により
表彰**



～お知らせ2～
**阪南市立たんぽぽ園
指定管理 延長**



「仕事は忙しいけど楽しいです！」
と笑顔で話す利用者さん

「おはようございます！」毎朝、作業所内に利用者さんの活気ある声が響き渡ります。

就労継続支援B型事業所「フルールいづみ」は平成二十四年十一月に開所し、障がいのある方の就労支援に取り組んでいます。具体的なサービスは、主に娯楽施設やスポーツ施設で使用されているタオルなど、白物の洗たく物を回収し洗濯から配達まで行っています。業務分担は、危険に配慮した上で、出来る限り利用者さん主体で機械の操作なども扱つてもらうようにしています。



心を込めて、たたみ仕上げをしています！

現在、利用者数は十三名。平均年齢は五十一歳とやや高めですが、利用者さんは、「今日も一日頑張ります！」と若者に負けないぐらい元気いっぱい。

そんな環境の中で作り出される製品だからこそ、清潔で美しいものとなり、お客様にお届けできるのではないかと考えています。

製品をご利用いただく方にどうぞ心地良いものとなるよう、利用者さんと支援者一同、日々心を込めて作業に取り組んでいきたいと思います。

〔吉谷〕



みかんが黄色に色づいて美味しいそうです

次はお待ちかねのみかん狩りです。利用者さんの意気込みが伝わってきます。小高い山を登り、木に実っている黄色く色づいたみかんをもぎ取つて、その場で口にパクリ。甘酸っぱい果汁が口の中に広がります。利用者さんの中には「みかん八個も食べたわ」と自慢げに話す方もおられました。かごいっぱいにお土産のみかんを選んで詰めておられました。

初めて訪れた場所でしたが、利用者さん、職員も大好評の味覚狩になりました。

〔南〕

じよいふる
はかた

ふわふわの真っ白い 雲のような洗濯を目指して



夕方、利用者さんから、「今日も一日頑張った！」という言葉を聞くことが、支援者として最もやりがいを感じる瞬間です。『日々、明るく元気に楽しく仕事をする』を方針として、利用者さんと支援者が、共に働き甲斐のある職場作りに努めています。

みかん園に到着するやいなやお弁当の時間です。同じ日に幼稚園の園児も遠足にきており、にぎやかでした。昼食は利用者さんに大人気の和風弁当で、お腹いっぱい。

今池
平和寮

みかん狩り



みかんをもぎ取つて食べているところです。
みなさんおいしいと好評でした

太平

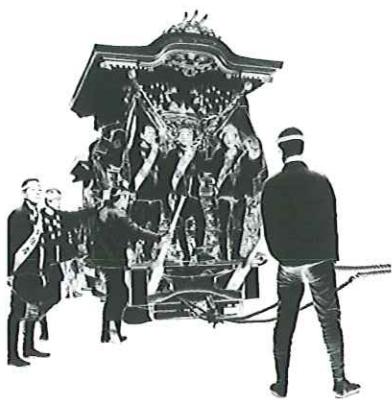
だんじりやでえ！



大きい物では、高さ4メートル。
重さ5トンにもなります

利用者の皆さんから「だんじりやで！宮原さん、初めてやろ。毎年來てるんやで！」と教えてもらいました。間近で見るだんじりは迫力があるのに加えて、とても繊細な造りが施されて美しく、利用者の皆さんと一緒に私も楽しませてもらいました。大興奮でした。

平成二十五年十月六日に、地元のだんじりが太平に来て下さいました。私が暮らしている地域には、だんじりがないので、新任職員として太平に赴任する事になって、初めてだんじりを間近で目にしました。



私はこの四月から新任として働いていますが、このだんじりをはじめとする地域の行事や太平での日常生活で、利用者の皆さんのが生き生きとした楽しそうな顔をみると、本当に嬉しくなり、つくづくやりがいのある仕事だなあと感じています。

まだまだわからない事だらけですが、今もこれからも利用者の皆さんの笑顔を、たくさん引き出せていけたらなと思っています。

〔宮原〕

今回の遠足は、浜寺公園グループとアリオ鳳グループに分かれに行きました。

浜寺公園では、公園内が比較的空いていたので、公園の散策・遊具（滑り台・ブランコなど）での遊び・スタッフとの会話など、参加された方のペースで楽しく過ごしました。

食事は、レストランやコンビニエンスストアで好きな物を選んで頂きました。普段とは違い、食べたい物が食べられるので、たくさん食べてしまう方もおられましたが、楽しいひと時を過ごしました。

アリオ鳳では、フードコートでの食事、店内の散策。たくさんあるお店の中から、お店を選び注文して頂きました。行く前から「ラーメン」と決められている方、「行ってから決める」と話され、迷いながらメニューを決める方等、楽しまれ方はそれですが、満足されしていました。食後のコーヒー ソフトクリームを食べる時の表情は最高でした。

各駅停車

遠足 最高やでえ！

高でした。

利用者さんにとつて行事は大切な活動となっています。次回も「楽しい遠足」を実施したいと思います。

〔新座〕



浜寺公園内を散策中のひとコマ！



収穫の楽しさ 育てることの大切さ

たんぽぽ園では広い敷地を活かして、グラウンドに畑を作っています。子どもたちに愛着を持つてもらうためにその畑を『たんぽぽ農園』と名付けました。畑作業に詳しいスタッフに教わりながら、いろいろな作物を育てています。

夏にはきゅうりやトマトにスマート。秋にはさつまいもを収穫しました。特に、収穫したさつまいもを使ったパテイーは子どもたちに大人気で、イベントの立役者としても大活躍です。この春には玉ねぎとブロッコリーを収穫しました。



大きい芋が掘れましたよ



ブロッコリーが収穫できました

自分たちで育てたという自信や達成感、それぞれが責任感を持つて取り組むことの大切さなどを、少しでも感じてもらえるようにこれからもがんばっていきます。

〔石川〕

現在の課題として『利用回数の少ない子どもたちにどのようにすれば作物の成長を実感してもらえるか』ということが挙げられました。この課題を解決し、利用しているみんなで育てているという実感を持つてもらいたいと考えています。

特に好評だったのはオットセイのエリアです。大きな水槽の一部がくぼんでおり、まるで自分も水中にいるみたいにオットセイを見上げることができます! 利用者さんも職員も大はしゃぎでした。



ペンギンたちの前で「はい、チーズ!」



最高の笑顔でパチリ

利用者の皆さんお待ちかねの日帰り旅行。昨年末、京都水族館に行つきました。

まずは、水族館近くの智積院

会館でお昼ご飯。お寺ではありますぐ、お肉や卵のボリュームたっぷりのメニューに、お腹も舌も大満足。

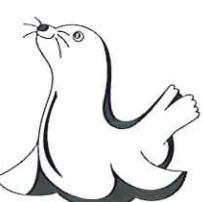
水族館では、私たちを出迎えてくれたオオサンショウウオの勇姿に「でかい!」「気持ち悪い!」「カツコいい!」など様々な声が飛び交いました。他にも目を見張るイワシの大群など、見どころはたくさんありました。

「来年はどうに行けるかな?」と、早くも次の日帰り旅行に夢をふくらませています。

〔西田〕



魚がいっぱい! お腹もいっぱい!



今、障がい者スポーツが熱い！

♪「福祉」から「スポーツ」へ♪



昨年秋、二〇二〇年に東京で夏季オリンピックが開催されることが決定しました。今年はソチ冬季オリンピックが開催され、夏にはサッカーのブラジルワールドカップの開催を控えています。

時には笑い、時には涙し、人々に感動を与えてくれる『スポーツ』

こうしたスポーツに対しても、障がいのある方も熱い思いを持つています。『障がい者スポーツ』といえど、パラリンピックを思い浮かべる方が多いのではないかでしょうか。しかし実際には障がいの種類によって、さまざまな組織や競技大会が存在します。ここからはその一部を紹介します。

最初に、聴覚障がいのある方の競技大会として『デフリンピック』があります。その歴史は古く、第一回大会は一九二四年にパリで夏季大会が、一九四九年にオーストリア・ザーフェルトで冬季大会が開催されました。競技種目は

夏季は二〇競技、冬季は五競技が行われています。

次に紹介するのは『パラリンピック』です。その起源は第二次世界大戦後のイギリスで、負傷した兵士たちのリハビリテーションとして始まりました。

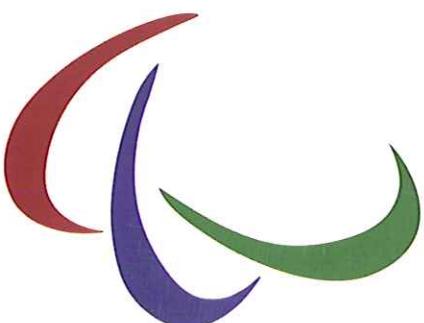
オリンピックと同様に四年に一度開催され、夏季は一九六〇年にローマで、冬季は一九七六年にスウェーデンのエーネシエルドスピークで第一回大会が開催されました。以後、IOC・国際オリンピック委員会との連携を強化し、一九八八年のソウル大会から正式名称が『パラリンピック』となりました。

パラリンピックは同じレベルの選手同士で競いあえるようになります。ため、障がいの種類、部位、程度によってクラス分けされています。

現在は聴覚障がい、精神障がいのある方は出場が認められておらず、知的障がいのある方は出場可

能となっています。
パラリンピックへの注目度が高まるところで、障がい者スポーツの認知度は大きく向上しました。國枝慎吾選手(車いすテニス)のようなスター選手が注目されるなど、障がい者スポーツの発展にも大きく貢献しています。一方でドーピングや障がい偽装、競技用器具による競技の公平性など、課題も多く生まれています。

次に紹介するのは『パラリンピック』です。その起源は第二次世界大戦後のイギリスで、負傷した兵士たちのリハビリテーションとして始まりました。



パラリンピックシンボル。
「心・肉体・魂」を赤・青・緑で表現しています

最後に、知的障がいのある方のための組織として『スペシャルオリンピックス』があります。この組織は、知的障がいのある方の自立や社会参加を目的として、日常的なスポーツプログラムや、成果の発表の場としての競技会を提供しています。

障がい者スポーツは、健常者スポーツの修正版ばかりではなく、『ボッチャ』など障がいのある方のために考案された競技もあります。そして近年では、プロ選手が誕生するなど競技性も高まっています。こうした流れから、福祉ではなく『スポーツ文化』としての理解と支援を求める声が強まってい

ます。精神障がいのある方のスポーツ競技は、現在普及が遅れているのが実情です。しかし、競技によっては国際大会が開催され、地道な普及活動が続いているいます。

世界大会に限らず、国内でも身近なところで、大小さまざまな大会が開催されています。大阪で

は、毎年秋に長居陸上競技場で『スポーツフェスタ』が開催されています。今年度法人からは太平とI・L伯太が参加し、金メダルをはじめ素晴らしい成績を修めました。

た。

障がい者スポーツは、健常者スポーツの修正版ばかりではなく、『ボッチャ』など障がいのある方の

5



伴走者とトラックを駆ける谷口さん(右)
(第24回日本身体障害者陸上競技選手権大会)
10000m(大会新記録)、5000mともに優勝

谷口真大選手が語る 『スポーツの魅力』

児童平和寮のスーパーバイザーとして勤務されている谷口真大さん。谷口さんは視覚障がい者(全盲)ですが、陸上競技で世界を舞台に活躍されています。そこで、谷口さんにスポーツの魅力についてたずねてみました。

Q マラソンを始めたきっかけを教えてください。
A 陸上部の先輩に声をかけられて、高校一年生から始めました。学生時代は主に一五〇〇、五〇〇メートルを走っていたのですが、一昨年からフルマラソンを始めました。

Q 走っている最中はどんなことを考えているのですか?

A トレーニングでゆっくり走っているときは、パートナー(伴走者)と楽しく会話しながら走っています。タイムを計ったりする厳しい練習のときは「あと何本、あと何本」と走りきることに集中しています。

大会ではフルマラソンの場合、前半は余裕があるので、「このペースでいけば、このくらいのタイムかな」とか、「終わったら何食べようかな」となどと考えていました。しかし後半になると余裕がなく、何も考えることができません。

Q マラソンをしていて、うれしい瞬間はどんなときですか?

A 自己ベストを更新したときや、目標を達成したときです。あと、伴走の方と息があつたとき

はうれしいですね。会話なしで、ラストスパートのタイミングが合つたりするうれしいです。

ように走ることができなくて、辞めようかと考えたこともあります。しかし、陸上を辞めてしまうと何も残らなくなってしまうのではないかと思い、前に進むことがあります。

Q 続けていてよかつたことは何ですか?
A 走ることでストレスの発散になりますので、嫌なことがあっても走ることで気になくなります。それと「これだけは負けない」と、自信を持つて言うことができるものがありました。

Q 終わったときにはありますか?
A 足を故障したときは、思う

Q 辞めたいと思ったことはありますか?
A 東京パラリンピック出場と、メダルの獲得が一番の目標です。しかしこだわるので、今は二〇一五年にカタールで開催される世界選手権での、自己ベスト更新とメダルの獲得を目指しています。

めようかと考えたこともあります。しかし、陸上を辞めてしまう

●プロフィール

谷口 真大(たにぐち まさひろ)

1990年7月16日生 兵庫県神戸市出身

〈成績〉

2013年 仏リヨン世界選手権
1500m・5000m・フルマラソン
全て5位

〈自己ベスト〉

1500m

4分22秒68

5000m

16分34秒10

フルマラソン

2時間42分28秒



桜が織りなす、人の輪と和



太平では、

毎年敷地内にたくさんの桜が咲き、地域の皆様も散歩の途中には、しばし足を止め楽しまれています。

例年お花見会を開催し、町会の方はじめ、婦人会の皆様、ボランティアの団体さんや、お隣の信太山自衛隊さんにもご参加いただいております。

この一大イベントをご利用者のみなさんも、地域の方たちの交流の場として、とても楽しみにされています。



交流の“輪”は更に広がい…

さつき園では毎年、太平でおこなわれる「お花見会」に利用者さんと参加しています。太平の敷地内にみごとに咲く桜の花を太平の利用者さんと一緒に楽しませていただいています。

このようにヘレンケラー財団では、地域交流はもとより、施設間での交流も深めています。



この季節、桜の花を囲んでご利用の笑顔が集います。これからも地域の方との出会いや、施設間交流での出会いを大切にしながら交流の花を咲かせていきたいと思います。



花より団子？! …だけじゃないんです！！

各駅停車「シルフ」では、毎年四月に太平の花見に招待していただき、利用者と共にパン・さをり製品の販売をさせていただいております。

地域の方々もたくさん参加されており、毎年恒例のカラオケ大会や、フラダンスなど、シルフの利用者も楽しみにしておられます。また、太平の花見は懐かしい方々と再開できる場所でもあります。

花見は利用者にとって、年度初めの楽しみであり、一年の仕事の励みに繋がっています。



ます。「満足いただけるご利用者支援」と繋がっていくことを期待しております。



メンタルヘルス研修開催！

看護師部会



法人人事報告

〔退職〕

三月三十日付

・入江 隆

(太平施設長)

・村江 昇
(福祉型障害児入所施設平和寮施設長)

〔昇進・昇格〕四月一日付

・熊崎 秀男

(太平施設長)

・五百蔵敏之
(各駅停車センター長)

・植田 辰彦
(福祉型障害児入所施設平和寮施設長)

・田島 千幸

(アテナ平和副館長)

・三宅 裕子
(じょいふるはかたセンター長)

・岡本 啓一
(アテナ平和 主任)

〔管理職異動(旧在籍施設)〕

四月一日付

・谷中 陽一
(救護平和寮)【救護
平和寮】

・打越 寛子 (IL伯太)
・高山 慶太 (太平)

・齊藤 直美 (太平)
・井崎 もも (各駅停車)

〔主任・一般職員(旧在籍施設)〕

四月一日付

・森中 孝代
(福祉型障害児入所施設 平和寮)・【救護
平和寮】

・石川 元久
(福祉型障害児入所施設 平和寮)

・中川 華奈
(太平)

・西岸 健太
(アテナ平和)

・【太平】

・松谷 官詩
(福祉型障害児入所施設 平和寮)

・西田 浩美
(ぶるうむ此花)

・中尾 剛之
(IL伯太)

・江頭 邦義
(各駅停車)

・富山 操
(太平)

・大岩 彩
(ぶるうむ此花)

・【今池平和寮】
(救護平和寮)

・【IL伯太】
(太平)

・大村 心一
(太平)

・西尾 昌文
(さつき園・まつのき園)

・友成 百合
(太平)

・岡本 啓一
(太平)

【救護平和寮】

・名合 奈巳
(福祉型障害児入所施設 平和寮)

・大内 慎吾 (太平)

・【救護
平和寮】・谷口 由樹
(福祉型障害児入所施設 平和寮)・辻中 悠希
(太平)・山本 晃也
(太平)・松井 美紀
(太平)・阪上 卓央
(太平)・山中 美穂
(アテナ平和)・市田 韶
(アテナ平和)・田中 美穂
(アテナ平和)・【IL伯太】
(アテナ平和)・稻田 加奈子
(各駅停車)・黒木 良
(たんぽぽ園)・山入 愛
(たんぽぽ園)・谷池 寛和
(たんぽぽ園)

・【ランプちゃん】

公式マスコットキャラクター決定!



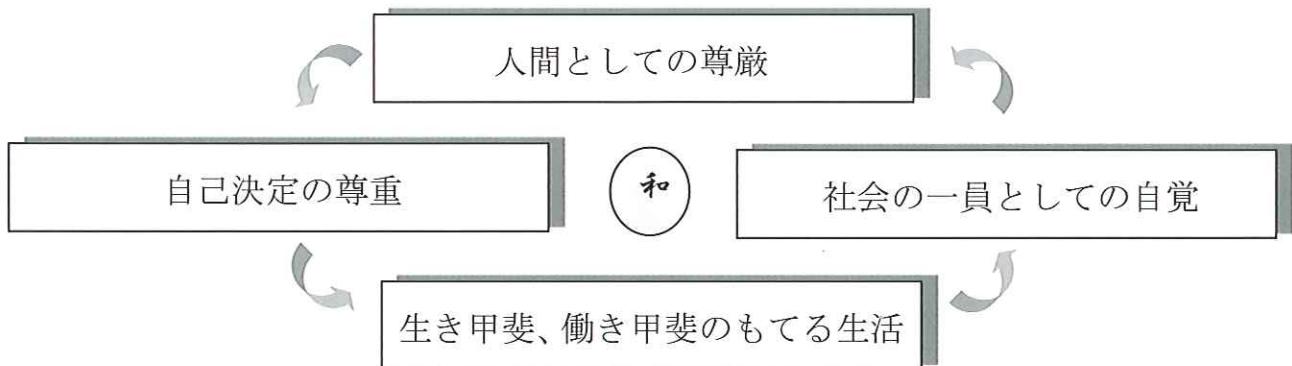
ランプちゃん

デザイン:高木 恵悟
(ヘンケラー財団 職員)

ちょっと照れ屋で元気な女の子です!
いつもニコニコしていて、人と接することが大好きです。
今後は機関紙やホームページを中心に登場していきますので、みなさんどうぞ宜しくお願いします!

誕生エピソードや、ランプちゃんについての情報は、
ホームページに詳しく紹介しているので、見に来てくださいね♪

社会福祉法人 日本ヘレンケラー財団
法人理念



《職員行動指針》

- ◎ 私たちは利用者の人権を最優先に考え、自己研鑽（スキルアップ）に励み、満足度100%の支援を目指します。
- ◎ 私たちは常に向上心をもち、利用者の方の立場に立って支援します。
- ◎ 私たちは変化に臆することなく、また、現状に満足することなく自らの進化に挑戦し続けます。
- ◎ 私たちは福祉のプロとして自覚し、プライドと責任を持って支援にあたります。
- ◎ 私たちは地域や行政に積極的に提言・実践を行い、地域福祉の向上に努めます。

名 称	種 别	所在地	電 話
法人本部	事務局	〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町3-4-27	06-6628-2229
平和寮	救護施設	〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町3-4-27	06-6628-6151
平和寮	福祉型障害児入所施設	〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町3-27-2	06-6621-4583
太平	障害者支援施設	〒594-0023 和泉市伯太町3-13-68	0725-45-2760
太平診療所	診療所	〒594-0023 和泉市伯太町3-13-68	0725-43-9066
ぶるうむ此花	生活介護事業所	〒554-0024 大阪市此花区島屋3-2-32	06-6468-7898
今池平和寮	救護施設	〒557-0003 大阪市西成区天下茶屋北1-4-6	06-6633-3161
I L 伯太	障害者支援施設	〒594-0023 和泉市伯太町3-13-57	0725-41-8191
さつき園	多機能型事業所	〒599-0211 阪南市鳥取中9-1	072-471-6868
まつのき園	地域活動支援センターI型	〒599-0211 阪南市鳥取中9-1	072-471-6863
アテナ平和	障害者支援施設	〒545-0003 大阪市阿倍野区美章園3-7-2	06-6629-2062
阪南市立 たんぽぽ園	多機能型事業所	〒599-0203 阪南市黒田468-1	072-473-2816
各駅停車	地域生活支援センター	〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町3-35-2	06-6629-7778
じよいふるはかた	地域生活支援センター	〒594-0023 和泉市伯太町1-13-50-401	0725-58-7512

編集後記

春は変化の時期です。皆様にも様々な出会いと別れがあったのではないでしょか。環境の変化は新たな価値を私たちに与えてくれます。別れは寂しいものがありますが、私たちはこの環境の変化をバネに創造性を刺激し、新たな価値を生み出し続けていかなければなりません。

私たちの樹形図が更なる広がりを見せ、新芽が芽吹いたことに、新たな創造性が生まれる可能性を感じ、期待に胸を膨らませる今日この頃です。

編集委員長 松岡 徹

編集委員 大岩 彩 (平和寮 救護)

佐々木 俊宏 (平和寮 福祉型障害児入所施設)

二羽 和典 (太平)

西田 岳峰 (ぶるうむ此花)

南 洋一郎 (今池平和寮)

松本 圭樹 (I L 伯太)

山本 ひろみ (さつき園・まつのき園)

田島 千幸・山本 悠美子 (アテナ平和)

五百蔵 敏之・森 伸二 (各駅停車)

亀井 伸幸 (じよいふるはかた)

叢書第52号

発行日 平成26年5月1日

発行者 社会福祉法人 日本ヘレンケラー財団 理事長 西川佳夫

事務局 〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町3丁目4番27号

ご好評につき、第2回目を迎えました、
読者の皆様に参加していただくコーナーです！

次回53号に向けて募集するテーマは、
「わたしの趣味」です！

掲載希望の方は、各施設の叢書編集委員まで
お気軽にお声掛け下さい。

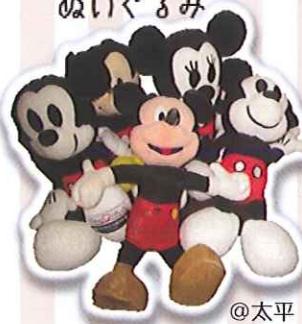


亡き両親から貰ったオルゴール
と母の形見の髪止め

髪止めを見ると、いつもボニーテールに
していた母を思い出します

広島に送る千羽鶴

母よりプレゼント！
ミッキーマウスの
ぬいぐるみ



③@太平



盆踊りで着た
浴衣



趣味のパズルと
思い出の映画の
パンフレット



子どもから貰った服と
お気に入りのキティちゃん



ボランティアの栗谷さんと一緒に
作ったクリスマスリースとミニホウキ



15年間で集めた人形たち…
なんと約1500体！
うち、自作人形が約1000体！

我が家の
宝物



母がいつも肌身離さず大切にしていた
父から貰った指輪を、
ある日母が倒れた日にフラフラしながら
指から外して自分に渡してくれました。

⑩@さつき園



⑪@児童平和寮

今回のテーマは

